

2022年8月29日

## 中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ 2022年度前期活動報告書

### 抄録

今期より、全チューターがライティング・ラボ内での勤務に切り替えることができたため、対面セッションも十分数を供給できる体制を整えることができた。セッション数は、408件、稼働率は53.44%であった（I-3）。なお、総セッション数のうち、対面は208件、オンラインは200件であった。今期の特徴として、対面形式とオンライン形式のニーズが拮抗していたことが挙げられよう。また、出張ガイダンス/ライティング・ラボ見学ツアーの申し込み法、ワンポイント講座の実施に関して従来からの変更点があったため、以下に記す。

まず、対面セッションへのニーズであるが、学部1、2年生中心に高く、対面でのコミュニケーションへの安心感やわかりやすさ、帰宅時に立ち寄れる気楽さ等が利用の理由として考えられる。一方、オンラインセッションへのニーズは、大学院の留学生を中心に高く、利便性がその理由として考えられる。今期末はコロナ感染再拡大のため、オンラインセッション中心に切り替えたものの、双方のセッションへのニーズが拮抗していることから、来学期以降できる限りのコロナ対策をしながら、対面セッションとオンラインセッションの同時開室を継続したい。

次に、出張ガイダンス/ライティング・ラボ見学ツアーであるが、今期前半セッション稼働率が伸び悩んだため、従来であれば期初に実施するところを、今期は6月実施とした。申し込みの簡易化を図ることで、利用増に繋がり、出張ガイダンス24件・見学ツアー11件を実施した。実施後の学生の感想からも、チューターを身近に感じられたこと、ラボの利用の仕方を知れたこと等の利点が見られ、ライティング・ラボ利用のきっかけになると推測される。実施時期については検討事項とするが、今後も実施方法については今期を踏襲したい。

最後に、ワンポイント講座であるが、コロナ禍以前同様に今期よりチューターが主に担当する形式に戻した。チューターが担当することで、ワンポイント講座をチューター研修の一環に位置付けることができる。また、協働による研修という利点が大きいことから、ワンポイント講座は今後もチューター担当で実施していきたい。

以 上

## はじめに

2022 年度前期におけるライティング・ラボの活動状況について、以下の通り報告する。  
I では開室状況と利用実績、II ではセッション以外の活動、III では来期にむけて特筆すべき所見を述べる。

## I 開室状況と利用実績

### I-1 開室期間と日数、チューター配置数

開室期間：2022 年 4 月 11 日から 2022 年 7 月 27 日までの月・火・水・木・金曜日

開室時間：14:10~17:40 ※木曜日のみ 10:50~17:40

開室日数：73 日（前年度 70 日）

設置セッション数：771 コマ（前年度 1137 コマ）<sup>1</sup>

アカデミック・ライティング部門長：尹智鉉

スーパーバイザー（SV）：中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー（ASV）：松井雄志

シニアチューター（ST）：5 名

チューター 7 名（一人当たり 4~8 コマ担当）

### I-2 受付方針（2022 年度前期）

受付優先順位および予約の可否は、文章の種類（対象文章かそれ以外か）に基づく。

#### 1. 対象文章

授業で課題となったレポート、発表レジュメ、卒業論文、修士論文、博士論文、投稿論文、プレゼンテーション原稿（スライド、口頭用）、研究計画書、ボランティアセンター報告書、総合政策学部プロジェクト活動報告書

#### 2. 空きがある場合につき、受け付ける文章

奨学金応募書類に含まれる志望動機書、留学志望書、公務員試験練習課題  
日本語翻訳（授業の課題のみ）

そのほか、アカデミック・ライティングの観点でコメントできそうな文章

#### 3. 受付不可とする文章

就職活動関係の文章（キャリアセンターへ案内）、メールや手紙の文章

---

<sup>1</sup>稼働可能なブース数すなわちチューターの配置数をコマとしてカウントした。

英語の文章、公務員試験以外の筆記試験対策のための相談

### 1-3 実施セッション数と稼働率

実施セッション数：408 件（前年度 425 件）（うち対面 208 件、オンライン 200 件）

セッション稼働率：53.44%（前年度稼働率 37.4%）<sup>2</sup>

セッションの稼働実態を把握するため、以下に、週毎の設置数・稼働数の推移（図 1）、週毎の稼働率の推移（図 2）週別・曜日別のセッション数と稼働率の表（表 1、表 2）を示す。

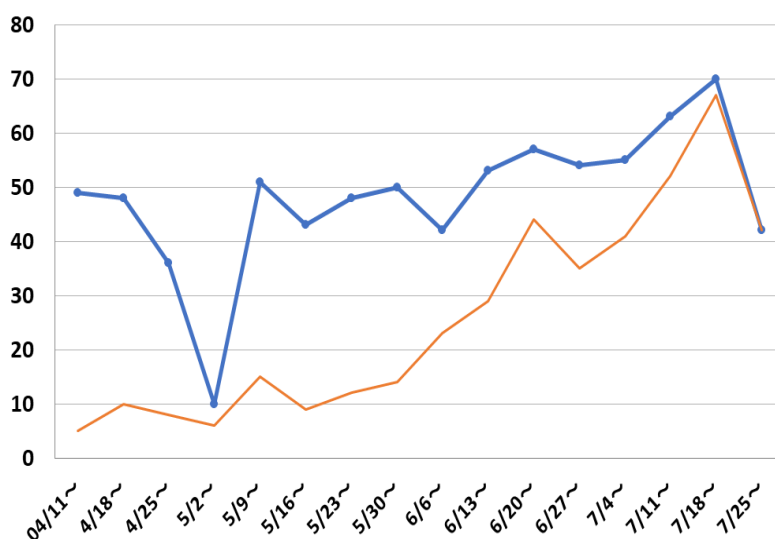


図 1 2022 年度前期週別セッション設置数・稼働数の推移  
(青：設置数、茶：稼働数)

<sup>2</sup>稼働率の算出方法を 2019 年度までのものに戻した。SV/ASV は主に管理運營業務を行うため、設置数に含めないこととする。また、No Show（予約はしたものの来室せず）の 4 回については、実施扱いで稼働率を算出した。実際のセッションは 408 回であるが、稼働率の計算に関しては、セッション数は 412 回としている。

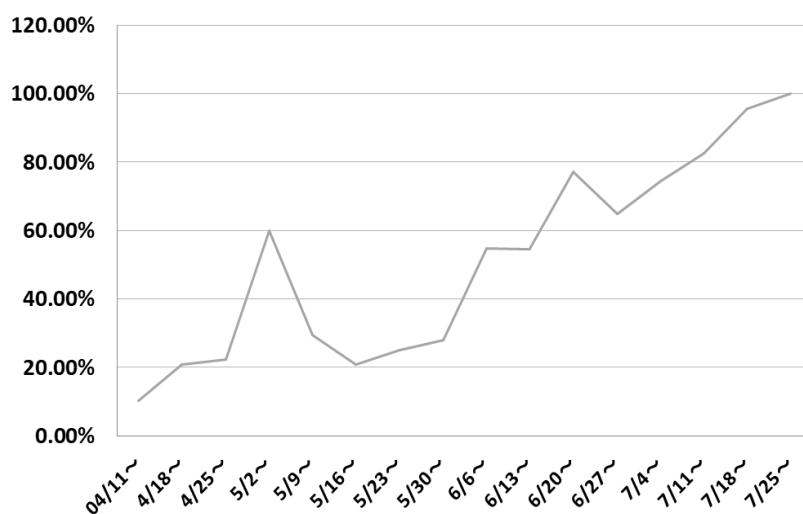


図2 2022年度前期週別セッション稼働率の推移

表1 週別・曜日別セッション数・稼働率（4月第2週～5月最終週）

		04/11~	4/18~	4/25~	5/2~	5/9~	5/16~	5/23~	5/30~
月	設置数	8	8	8		9	9	8	8
	稼働数	1	0	2		6	3	2	0
	稼働率	12.50%	0.00%	25.00%		66.67%	33.33%	25.00%	0.00%
火	設置数	8	8	8		8	8	8	8
	稼働数	0	2	2		4	1	2	0
	稼働率	0.00%	25.00%	25.00%		50.00%	12.50%	25.00%	0.00%
水	設置数	8	7	9		8	2	8	7
	稼働数	1	1	2		0	0	3	3
	稼働率	12.50%	14.29%	22.22%		0.00%	0.00%	37.50%	42.86%
木	設置数	16	12	11		14	12	12	13
	稼働数	2	0	2		2	3	1	4
	稼働率	12.50%	0.00%	18.18%		14.29%	25.00%	8.33%	30.77%
金	設置数	9	13		10	12	12	12	14
	稼働数	1	7		6	3	2	4	7
	稼働率	11.11%	53.85%		60.00%	25.00%	16.67%	33.33%	50.00%
計	設置数	49	48	36	10	51	43	48	50
	稼働数	5	10	8	6	15	9	12	14
	稼働率	10.20%	20.83%	22.22%	60.00%	29.41%	20.93%	25.00%	28.00%

表2 週別・曜日別セッション数・稼働率（6月第1週～7月第4週）

6/6～	6/13～	6/20～	6/27～	7/4～	7/11～	7/18～	7/25～	前期全体
9	10	12	13	11	16	18	15	162
5	7	5	12	11	15	18	15	102
55.56%	70.00%	41.67%	92.31%	100.00%	93.75%	100.00%	100.00%	62.96%
8	8	9	8	10	11	12	11	133
5	5	5	5	7	8	12	11	69
62.50%	62.50%	55.56%	62.50%	70.00%	72.73%	100.00%	100.00%	51.88%
3	5	7	4	10	9	7	16	110
3	2	7	3	10	8	7	16	66
100.00%	40.00%	100.00%	75.00%	100.00%	88.89%	100.00%	100.00%	60.00%
12	16	15	15	13	15	18		194
7	3	12	5	9	13	18		81
58.33%	18.75%	80.00%	33.33%	69.23%	86.67%	100.00%		41.75%
10	14	14	14	11	12	15		172
3	12	15	10	4	8	12		94
30.00%	85.71%	107.14%	71.43%	36.36%	66.67%	80.00%		54.65%
42	53	57	54	55	63	70	42	771
23	29	44	35	41	52	67	42	412
54.76%	54.72%	77.19%	64.81%	74.55%	82.54%	95.71%	100.00%	53.44%

注) 100%超の週は、提出期限直前等の学生対応のため、延長等で設置数より多くセッションを行った週である。

### 【所見】

今期実施セッション数は、前年同期と比べてほぼ変わらない。しかし、稼働率の算出方法を2019年度以前のものに戻したため、稼働率は53.44%となり、昨年度の37.4%から増加している。これは、今学期から、全チューターのライティング・ラボ内勤務への切り替えに伴い、SV/ASV管理業務が増加したため、算出方法をコロナ前に戻したことによる。

6月以降の利用増は、出張ガイダンス/見学ツアーが一助になっているといえよう。また、教員によるラボの利用推奨も効果があったと考えられる。後期ではライティング・ラボ初利用のきっかけを精査し、より効果的な宣伝に繋げたい。さらに利用増の理由として、博士課程の留学生が繰り返し利用したことも挙げられる。しかしながら、利用学生の固定化が見られるため、来期以降は大学院留学生への宣伝方法を模索したい。

曜日別にみると、週末を挟んで月曜日と金曜日の稼働率が他の曜日に比べて高かった。水曜日は設置数の少なさから稼働率は高かったものの、稼働数は少ない。木曜日は全日開室しており、設置数は多いものの、稼働率は低かった。特に、第2第3セッションの利用が少なかった点が課題として挙げられる。空き時間はミーティングや研修などに有効活用したい。また曜日間の不均衡については、設置数を加減することで、対処する。

## 1-4 利用学生の内訳<sup>3</sup>

\* 利用学生数（延べ）<sup>4</sup>

2022年度前期合計 408名（前年度 425名）

<sup>3</sup> 今年度は利用学生が留学生かどうかはたずねていないため、日本人学生と留学生の内訳は記載しない。

<sup>4</sup> 延べ利用数。実施セッション数に基づくため、同一学生の同一日利用および連続セッションを含む。

\*利用学生の所属

法学部	72名
経済学部	46名
商学部	33名
理工学部	2名
文学部	87名
総合政策学部	13名
国際経営学部	13名
国際情報学部	4名
法学研究科博士前期	18名
経済学研究科博士前期	11名
商学研究科博士前期	4名
理工学研究科博士前期	0名
文学研究科博士前期	10名
総合政策／公共政策研究科博士前期	19名
法学研究科博士後期	4名
経済学研究科博士後期	5名
商学研究科博士後期	0名
文学研究科博士後期	41名
総合政策／公共政策研究科博士後期	15名
法学部通信教育課程	7名
ビジネススクール	3名
聴講生	1名
計	408名

\*利用学生の学年

学部1年	138名
学部2年	50名
学部3年	22名
学部4年	55名
学部5年以上	15名
博士前期／修士	62名
博士後期	65名
聴講生	1名
計	408名

## 1-5 相談文章の種類

卒業論文・修士論文・博士論文	54 件
授業のレポート	217 件
投稿論文	39 件
研究計画書	57 件
授業の発表資料	17 件
学外での発表資料	1 件
その他	23 件

### 【所見】

利用学生の所属内訳からは、特に法学部と文学部の学生、文学研究科の大学院生の利用が多いことがわかる。今後は、利用者の少ない学部や研究科の利用促進に向けて、広報活動に力を入れるとともにニーズを探っていきたい。オンラインセッションを実施しているため、国際情報学部や理工学部など多摩キャンパス以外の学生にも利用を呼びかけたい。

学年の内訳をみると、例年同様前期は学部1年生の利用が多かった。教員からの推奨で来室する学生が多かったが、初めて書くレポートに不安を覚えて来室する学生も一定数いた。適切な支援をすることで、来期以降の継続利用に繋げたい。

博士課程の留学生に関しては、延べ127名の利用といえども、異なり数は20名程度であり、特定の学生による繰り返し利用の傾向がわかる。留学生の利用傾向を探るため、後期からは利用学生が留学生かどうかを確認することにする。また、相談文章に関しても卒業論文・修士論文・博士論文をまとめて集計しているが、来期以降は分けて集計することで、特に大学院留学生の修士論文執筆過程における利用状況を明らかにする。

## 1-6 利用学生のアンケート

各セッション終了後、利用学生に任意でアンケートに協力してもらった。対面では紙面にて、オンラインはGoogleフォームにて実施した。対面では121通、オンラインでは115通を回収した。質問項目と結果は以下の通りであった。

### ライティング・ラボを知ったきっかけ<sup>5</sup>

ライティング・ラボを知ったきっかけを表3にまとめた。

表3 ライティング・ラボを知ったきっかけ (件数)

	対面	オンライン
学内掲示 (ポスターなど)	38	21
Cplus、manaba	10	20
ライティング・ラボのHP	12	24
Twitter	4	2

<sup>5</sup>複数回答可とした。

先生からの紹介	56	81
チューターからの紹介	3	5
友人、先輩や知人からの紹介	16	19
ライティング・ラボのワークショップ	2	2
その他	6	3

### セッションは有益だったか<sup>6</sup>

セッションが有益だったかどうかに対する回答を表4にまとめた。

表4 セッションは有益だったか (件数)

	対面	オンライン
有益ではなかった	0	0
あまり有益ではなかった	0	1
どちらともいえない	0	2
有益だった	20	24
とても有益だった	101	87

### セッションが有益だと感じた理由

セッションが有益だと感じた理由を、自由記述でたずねた。回答をまとめると、「一緒に検討したプロセス」「自分の文章の問題点/疑問点の解消」「文章の構成に関する気づき」「内容や思考の整理や明確化」「引用のマナーの確認作業」「ポジティブフィードバックによる自信」「文や語句に関する気づき」を有益だと感じていることが示された。

### セッションの時間<sup>7</sup>

セッションの時間についてどう感じたかについての回答を表5にまとめた。

表5 セッションの時間についてどう感じたか (件数)

	対面	オンライン
短かった	3	3
少し短かった	20	22
妥当だった、ちょうどよかった	94	63
少し長かった	0	0
長かった	2	0

<sup>6</sup> 「有益ではなかった」「あまり有益ではなかった」「どちらともいえない」「有益だった」「とても有益だった」の5段階評価。

<sup>7</sup> 「短かった」「少し短かった」「妥当だった、ちょうどよかった」「少し長かった」「長かった」の5段階評価。



### 対面セッションの良かった点<sup>8</sup>

場所がわかりやすかった	19件
セッションブースなどの環境が整っていた	49件
文章の共有が楽だった	61件
チューターとの意思疎通がしやすかった	103件

### 対面セッションで困った点

場所がわかりにくかった	17件
セッションブースなどの環境整備に問題がある	2件
文章共有の準備に手間取った	7件
チューターとの意思疎通が難しかった	2件

### オンラインセッションの良かった点

移動の手間が省けた	57件
文章やデータの事前共有が楽だった	37件
対面とは異なり緊張せずに済んだ	23件
その他	1件

「文章をパソコンで便利に修正できて、時間を省けます」

### オンラインセッションで困った点

場所の確保が難しかった	0件
文章やデータの事前共有が大変だった	4件
どのように操作すればよいのかわからず不安だった	3件
チューターの声が聞き取りづらいときがあった	2件

### より良いライティング・ラボにするためのアドバイス

より良いライティング・ラボにするためのアドバイスとして自由記述で回答を求めたところ、「セッション時間の延長希望」(1件)「当日予約受付の継続希望」(2件)「予約方法の改善希望」(1件)「広報活動の強化」(1件)「全学メール宛てにライティング・ラボについてのお知らせを送ってほしい」(1件)「テスト期間最終日までの開室」(1件)に関する意見も挙げられた。

#### 【所見】

利用学生のアンケート結果からは、利用のきっかけが教員の推奨によるものが多かったことが明らかになった。来期は初来室のきっかけを精査し、広報宣伝活用に活用したい。

---

<sup>8</sup>複数回答可とした。「対面セッションで困った点」「オンラインセッションの良かった点」「オンラインセッションで困った点」も同様。

セッションについては、とても有益だった、有益だったという回答が 232 件であった。有益だと感じた理由からも、チューターと一緒に検討するという作業が有効であることがわかり、ラボの理念に沿った学びの場を提供できているといえよう。

対面セッションの良かった点として、「チューターとの意思疎通がしやすかった」という点が挙げられた。対面セッションの主な利用者が学部 1, 2 年生であったため、対面コミュニケーションへの安心感などを感じたと考えられる。一方、困った点として、ラボの場所がわからなかったという回答が一定数あった。これについては、今期 HP 上にラボへの経路を案内する画像を掲載することで対応した。オンラインセッションの困った点は、PC 操作にかかわる内容が主であるため、丁寧な案内を心掛けるようにしていきたい。

## II セッション以外の活動

### II-1 広報活動

#### II-1-1 出張ガイダンス及び見学ツアーの実施

6 月中にグーグルフォームによる申し込みを受け付け、出張ガイダンス 24 件、見学ツアー 11 件、合計 35 件実施した。申し込みの簡易化が利用増に繋がったが、期中に多くの出張ガイダンスと見学ツアーを実施することに伴うチューターの負担を考慮し、来学期からは期初にグーグルフォームでの申し込みによる案内を実施することとする。なお、チューターによる出張ガイダンス及び見学ツアーはおおむね好評で、施設の紹介に留まらず、施設利用への心理的障壁を取り除く機会となること、ライティング・ラボがセーフティーネットとしての働きもすることなどが、担当教員より報告されている。

#### II-1-2 ワンポイント講座開催

6 月に、学部 1・2 年生対象に、ラボの宣伝を主目的としたオンライン/対面形式各 1 回ずつのワンポイント講座を開催し、合計 70 名が参加した。なお、2020 年及び 2021 年はコロナ禍のため、部門長・SV・ASV が担当したが、今年度から、従来通りチューター担当による開催としている。

テーマとして「レポートの書き方資料」の観点の 1 つである「パラグラフ・ライティング」を取り上げた。ワンポイント講座の準備過程において当該観点を詳細に検討することから、ワンポイント講座開催をチューター研修の一環としても位置付けている。

「レポートの書き方資料」のダウンロードに加え、「パラグラフ・ライティング」の解説動画を HP 上で視聴することができるように、オンラインの回については録画し、その一部を HP 上で公開している<sup>9</sup>。来年度以降順次他の観点についても、ワンポイント講座を開催し、動画を HP 上にて公開していく計画である。

---

<sup>9</sup> 学生は画面に映らない設定、チューターは声のみの録音とし公開にあたっては同意書を得た。

〈対面〉

6月2日(木) 17:00-17:40 (参加約20名)

〈オンライン〉

6月8日(水) 17:00-17:40 (参加約50名)

\* アンケート<sup>10</sup>結果： (回収48件)

とても有益だった 23件

有益だった 24件

あまり有益ではない 1件 (内容が簡単だったため)

\*役に立ったこと

- ・ライティング・ラボの存在を知れた他 3件
- ・「レポートの書き方資料」の存在を知った 1件
- ・読み手が読みやすい、読みづらいと思う文章が理解できた 1件
- ・ワーク付きでわかりやすかった他 3件
- ・パラグラフ・ライティングの手法をすることができた他 3件
- ・わかりやすい構成／文章の整理の仕方を学べた他 5件

\*学生よりの要望

- ・もう少し難易度が高くてもよかった／よりレベルの高い講座も開いてほしい
- ・多摩キャンパス以外にもラボを設置してほしい (国際情報学部生)
- ・ラボのラインを増やしてほしい

\*その他感想など

- ・今までレポート課題はなかったが、今後ぜひ活用したいと思った。
- ・一人でレポートを書くのは難しいと思う。
- ・自分が書いた文章を見直すいい機会になった。
- ・アイデア段階でも相談できるのは心強い。
- ・口頭発表の相談も受け付けているので利用したい

### II-1-3 HPのコンテンツ

「レポートの書き方資料」は、グーグル、ヤフーで検索するとトップに表示される(2022年8月6日時点)。「ライティング・ラボに数多く持ち込まれた相談」という基準でコンテンツを選択したことが、多くの利用へと繋がっているのであろう。また、学部生からも「引用の仕方などを、資料で確認している」という声も聞こえおり、学生のニーズにあった資料の配布/配信ができているといえよう。

---

<sup>10</sup> 対面、オンラインの回ともにグーグルフォームを用いて、講座の最後に実施した。

また22年度前期は、新入生を対象としたラボの施設案内を、チューター中心に作成し、掲載した。ラボへの経路、ラボ内の設備などをHP上で確認できることで、利用時の心理障壁を下げ、利用に繋がるきっかけとなる効果を期待したい。

また、上述した通り、ワンポイント講座時の解説動画の一部をHPで公開するなど、今後もHP上のコンテンツを充実させることで、ラボの周知へと繋げたい。

#### 【所見】

出張ガイダンスおよび見学ツアーについては、申し込みの簡易化が効果的であった。ガイダンス/ツアー時に教員からもラボ活動について質問があったことから、今後も教員への宣伝を実施し、ラボの活動への理解に繋げていきたい。

ワンポイント講座については、合計70名の参加という点からも、ラボの宣伝という目的は果たせたと見える。しかしながら、オンライン参加者が50名であった一方、対面参加者は20名にとどまったことから、対面については来年度開催時間等の再検討が必要であるといえよう。2019年度までは昼休みの時間に開催しており、集客もよかったことから、来年度以降は昼休みの開催も検討していきたい。

## II-2 研修

### II-2-1 チューター全体研修

今期は各曜日1回ずつチューター研修を担当するという方式で全体研修を実施した。研修の目的は「チューター間での学び合い」とし、各回のテーマは曜日担当チューターを中心に、チューター自身が抱える疑問等から選定した。たとえば、第3回の担当チューターは「対面セッションだからこそできることは何か」というテーマを選んだ。経歴の浅いチューターは対面セッションの経験が少なく、対面セッションへ戸惑いを感じていること、そしてそのような戸惑いがあること自体を経歴の長いチューターが気づいていなかったことから選定されたテーマである。このようにテーマ選定の段階から、気づきや学び合いが生じ、チューター同士の日常のセッションの助け合いにも繋がったといえよう。さらに、セッション稼働率に余裕がある時期は曜日内での事前課題を課す等、学び合いにつながる試みを行った。以下、表8に今期のチューター全体研修の概要を示す。

表8 2022年前期チューター全体研修の概要

日時	テーマ
4月14日	今期キックオフ・新人紹介・スケジュール説明等
4月28日	ブレインストーミングを行うセッションについて
5月19日	対面セッションだからこそできることは何か
6月9日	アカデミック・ライティングの観点以外のセッション
6月30日	文章の事前共有がないセッションでの文章診断
7月21日	〈新人お悩み相談会〉 「学生の発言に対して、次にチューターとして何を言えばいいのか迷う。」

## II-2-2 新人チューター研修

今期就任の新人チューター1名に対し、配属曜日のチューターを中心に、文章診断練習・セッションの計画・模擬セッションなどを約1ヶ月半にわたって実施した。今期はチューター全員がラボ内での勤務であったことから、着任後2期目のチューターとも学び合う機会を作ることができ、学び合いという点でも非常に意義のある新人チューター研修になったと思われる。

### 【所見】

全体研修のテーマをチューターからのボトムアップで選定する等研修にかけた時間が多かったことが、チューター間の学び合いに大きく繋がったと考えられる。期初～期中にかけてセッション稼働率が低かったため、時間をかけ丁寧な研修を実施することが可能であり、今期は「チューター研修」という点では非常に有意義な時間を持つことができた。今後も、セッション稼働率に余裕がある時期は、研修時間として有効活用し、セッションの質の向上、院生の教育力向上に努めていきたい。

## II-3 アシスタント・スーパーバイザー採用の実施

ラボにおける管理業務の強化・人的体制の確保、および院生へのキャリア支援の強化を目的とし、アシスタント・スーパーバイザー採用を今期より実施した。従来、博士後期課程修了生へのキャリア支援のためのポジションとしてアソシエイト・スーパーバイザーを設置していたが、今期からは「博士前期課程修了生のうち、小・中・高・大において3年以上の教員歴を有する者（非常勤を含む）」へのキャリア支援のためのポジションとしてアシスタント・スーパーバイザーを設置することとした。採用枠を拡大することにより、高校での非常勤教員歴また大学で3年以上の教員歴（非常勤講師等）を持つチューター経験者を採用の候補として検討できる。これにより、中大出身者のキャリア支援を強化できること、高校の非常勤講師等の教育力向上に貢献できること、ラボの人的体制の確保ができることから、今期より採用枠の拡大を実施した。

上記に伴い、4月1日に松井雄志アシスタント・スーパーバイザーが着任した。教職を目指す院生にキャリアデザインの一例を示すことができ、ライティング・ラボにおける院生のキャリア支援という役割の強化に繋がる。

## II-4 中大付属杉並高校チューター派遣業務

報告書を別添1に記載。

# III 来期に向けた所見

## III-1 チューター公募

前期のチューター公募を例年通り実施する。スケジュールは下記のとおりで、2～3名の採用を目指す。来期、法学研究科の移転が予定されているが、法学研究科の院生も応募できることとし、勤務先についても研修終了後は考慮する予定である。

8月31日 応募書類受付締め切り  
9月14日 面接  
10月1日 着任

### III-2 セッション形態

セッション形態に関しては、前期終了時点でコロナ感染が再拡大し、チューターの不安も増大したことから、期末の1週間程度はオンラインセッション中心に実施した。しかしながら、対面セッションへのニーズも一定数あるため、後期も、基本的に対面セッションとオンラインセッションの同時開室を実施する。しかしながら、チューターも不安の中でのセッションとなることから、感染状況次第では後期もオンラインセッション中心に切り替えることを検討する。ただし、チューター勤務地についてはいずれにしても多摩キャンパス内勤務とする。

### III-3 留学生の利用率向上に向けた取り組み

今期の博士前期課程の延べ利用者数は62名であるが、繰り返し利用がほとんどである。なかでも博士前期課程2年次以降の留学生利用者数（異なり）は7名に留まっている。このことから、繰り返し利用が多く、利用が特定の学生に留まっていることがわかる。外国語である日本語でのセッションによる留学生の負担、一方的な添削をする場ではないというラボの支援方法、ライティング・ラボに関する情報の不徹底などから2年次以降の留学生の利用が伸びないと思われる。例年、修論提出間際の利用が増加し、修論執筆過程における効果的な支援に繋がっているとはいえない。そこで、教員とより専門的な内容について検討するためにも、博士前期課程の留学生に関しては特にラボの早期利用を推奨していきたい。来期以降、博士前期課程の留学生の早期利用促進に向けて、ラボの利用方法の案内につき検討していきたい。なお、博士後期課程在籍者については、ラボをうまく利用できている院生が数名いる。投稿論文等の執筆で夏休みも利用したいという声が昨年につながっていることから、昨年に引き続き夏季休暇中の個別支援を実施している。

以上

2022年8月23日

スーパーバイザー 中野玲子

アシスタント・スーパーバイザー 松井雄志

## 【別添 1】

### 2022 年度中央大学アカデミック・サポートセンター ライティング・ラボ 中央大学杉並高校セッション(前期) 実施報告書

## 1. 開室日数と稼働率

### 1.1. セッション設置数と稼働数

開室時間は①15:45-16:25、②16:30-17:10、③17:15-17:55 (※1 セッション 40 分)

・ 5 月

9(月)・16(月)・20(金)・30(月)の 5 日間開室。

設置数が 21 に対し、稼働数が 18。

※5/13(金)はセッションは行わず「問いの立て方」に関するワークショップを実施。

・ 6 月

3(金)・6(月)・10(金)・13(月)・17(金)・20(月)の 6 日間開室。

設置数が 27 に対し、稼働数が 27。

### 1.2. 稼働率

稼働率は、5 月が 85.7%、6 月が 100%で、全体で 93.8%の稼働率となった。

<2022 年の稼働率>

月別	5 月	6 月	計
設置数	21	27	48
稼働数	18	27	45
稼働率	85.7%	100.0%	93.8%

## 2. 対面・オンライン同時開催について

本年度は担当チューターが 3 名になり、月曜日に 2 ライン確保できたため、月曜日のみ対面・オンラインでセッション対応することになった。

### 2.1. セッションの流れ

昨年度のオンラインセッションは Zoom 上で行ったが、本年度は中杉の生徒が授業で使う Goolge Classroom から Goolge Meet に接続する形式でセッションを行った。

オンラインセッションを 2 ライン開室する場合、1 ラインは Goolge Meet で通常通り行い、もう 1 ラインは Webex で行った。

オンラインセッションは、中杉ミーティングルームで先生の PC を使って接続するか、自宅から通信を行う形で実施の予定であったが、通信に不安を感じる生徒が多かったため、結果としてほとんどの学生が学校から接続した。

毎週チューターは Google Classroom 上に「課題」を作成し、生徒に「探求マップ」や「文章」を提出させた。

中杉先生方の配慮により、少なくともセッション1時間前には、すべての生徒の探求マップが classroom 上で確認出来た。

## 2.2. セッション中に発生した問題と後期の課題

- ・対面セッションでは特にトラブルは発生しなかった
- ・オンラインセッションでは、学生が文章や探求マップを事前に提出出来ないという問題と、通信トラブルの主に2点の問題があった

### 【文章の文章事前提出】

状況：生徒には文章を Google スライドで提出するよう指示していたが、先生の授業の状況によって、セッション当日のタイミングで生徒の google スライドの権限が生徒に移っておらず、生徒が提出出来ない問題が発生した。

対策：（要検討）google スライドの権限受け渡しについて

### 【通信トラブル】

状況：パソコン操作を苦手とする学生が多かった。また、Web ミーティングの URL 作成者がログインしないことで、通信トラブルになった日があった。

対策（解決済み）：オンラインセッションはすべて学校で行い、チューターと話すまでの段取りをすべて中杉で対応していただいた。また、チューター側の接続トラブルを防ぐため、オンラインセッションを1ライン開ける際は google meet 上の接続で統一した。2ラインで対応する際は黒須が当日の Webex ミーティングを作成し、URL 作成者とセッション対応者にズレないようにした。

## 3. セッション所見

・すべての学生が、作成した「探求マップ」に先生からコメントをもらった段階で入室していた。

・チューターは「探求マップ」内の整合性や、先生のコメント沿って生徒が探求マップを修正できるかという視点でセッションを行った。

・多くの生徒は、自分の主張を「書きたい」という熱意にあふれており、セッションに対するモチベーションの高い生徒が多かった。

・主張には根拠が必要であり、その主張は先行研究に基づき検討されたものでなければならぬということを、言葉でわかっているものの、頭で理解できていない生徒が多かった。



た。例えば、自分の主張を補強する意見のみ集めてしまったり、自分で「思い付いた主張」をそのまま問題提起にあてがってしまうといったことがあった。

以上

2022年8月4日(木)